

# 浮腫(むくみ)

アセスメントスケールの活用



# もくじ

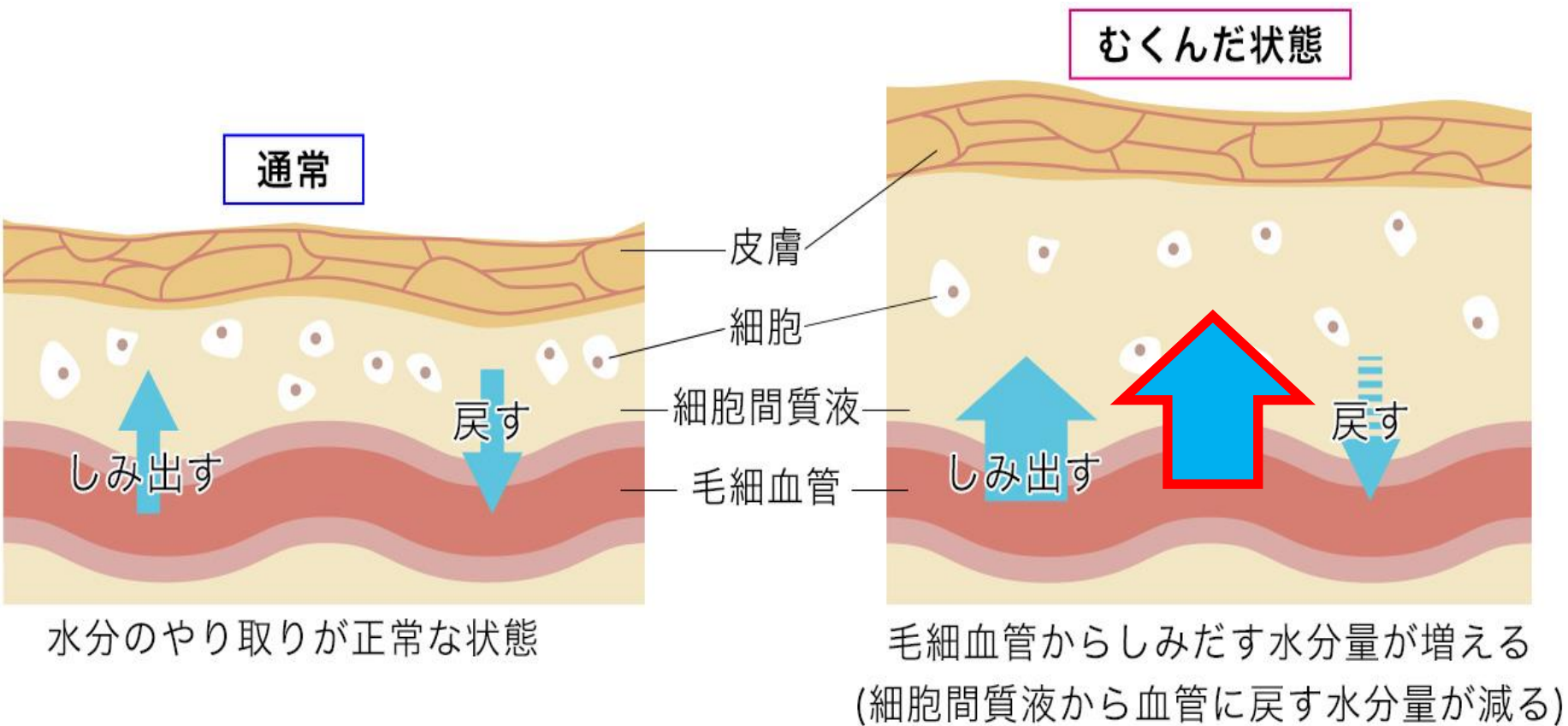
①浮腫の仕組み

②浮腫の原因

③浮腫の

アセスメントスケール

# ①浮腫の仕組み



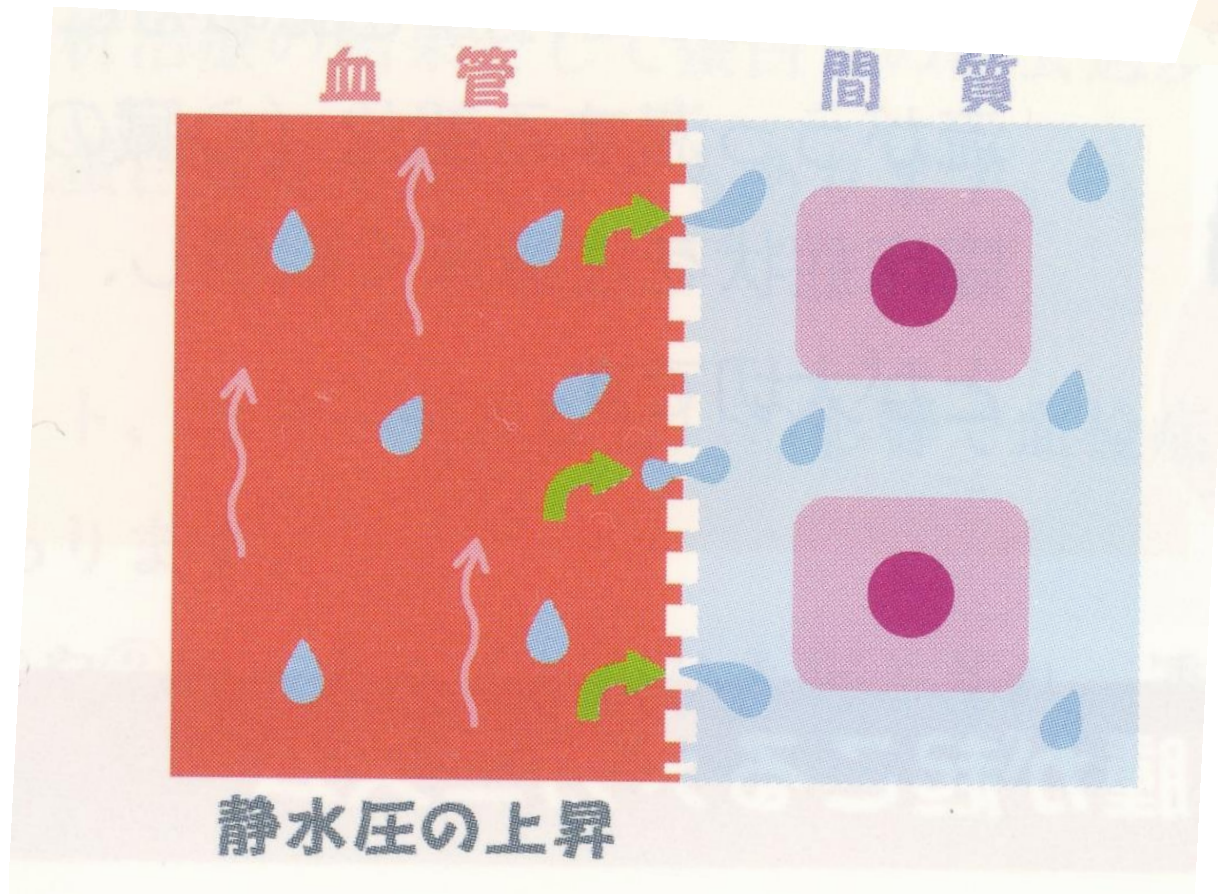
浮腫＝

水分が細胞間質液に溜まる

## ②浮腫の原因

- ・飲食による体重増加
- ・うっ血性心不全
- ・低栄養
- ・動脈硬化や糖尿病などの  
末梢動脈疾患

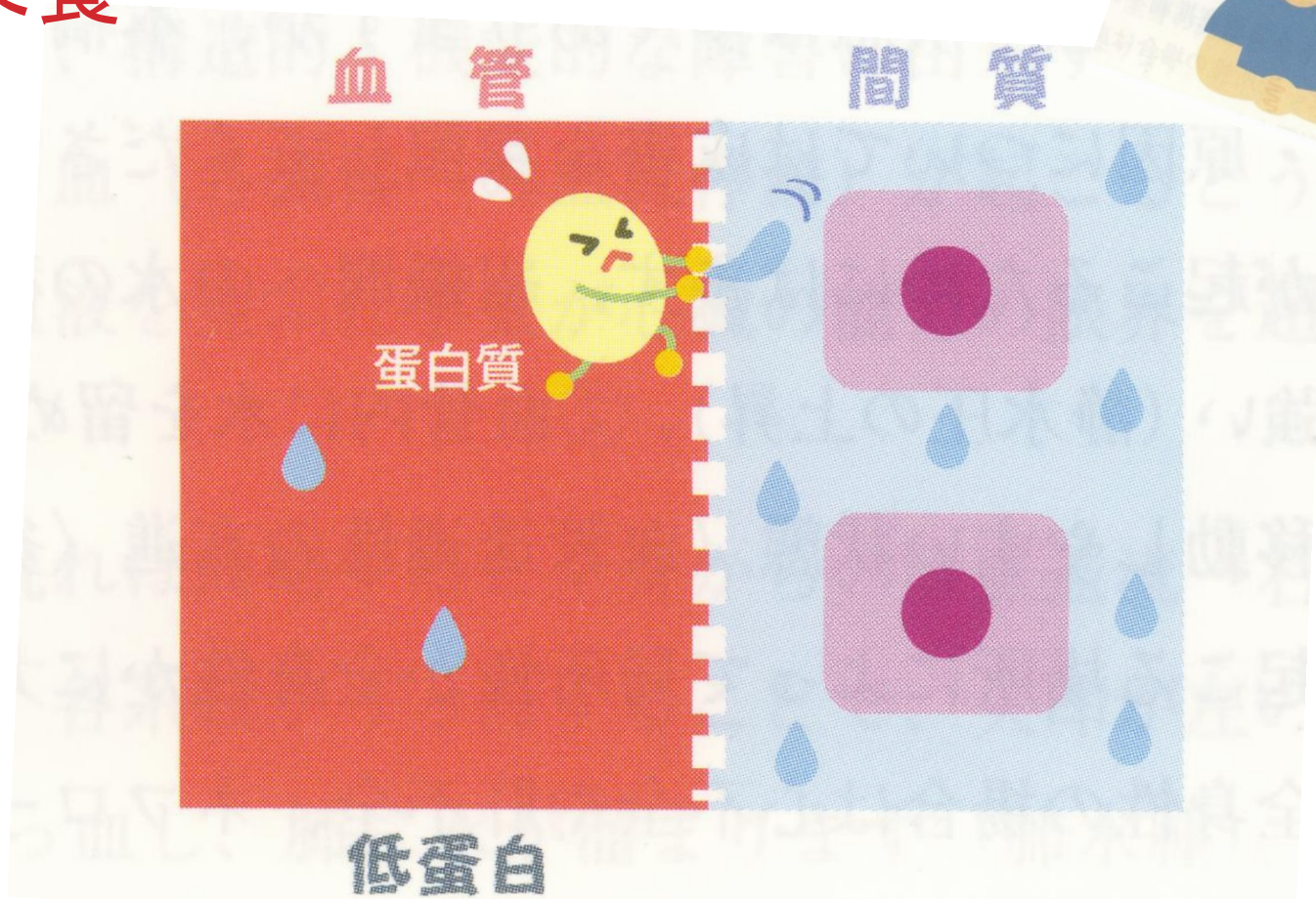
# 過度の体重増加やうっ血性心不全



水を血管の外へ押し出す力が強くなる

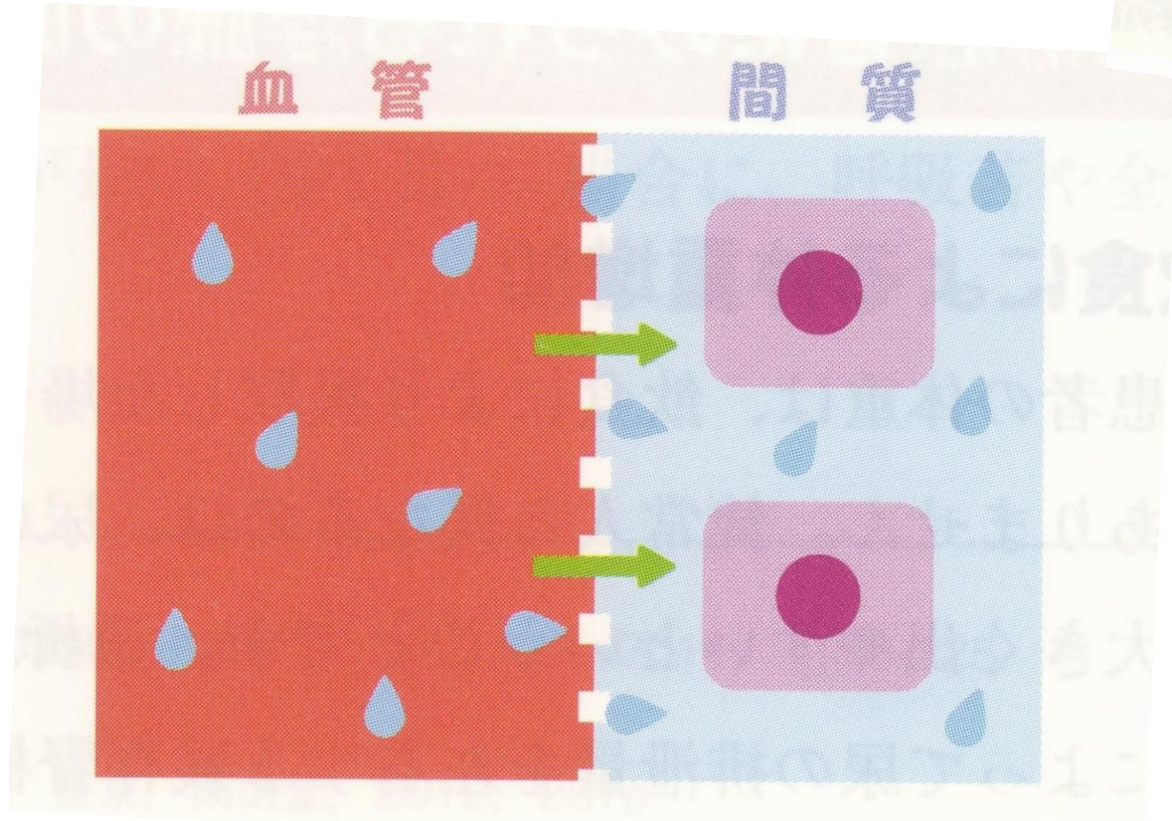
→細胞間質液が増加↑

# 低栄養



水を血管の中に溜めておく力(膠質浸透圧)が低下  
→細胞間質液が増加↑

# 動脈硬化や糖尿病などの 末梢動脈疾患



**血管の外に水が移動しやすい(血管透過性が亢進)**

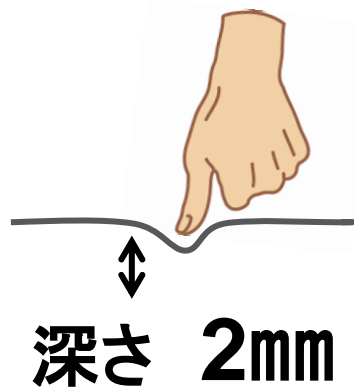
**→細胞間質液が増加↑**



### ③浮腫のアセスメントスケール

**+1**

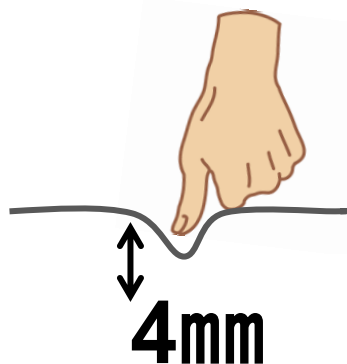
(痕跡)



わずかに  
圧痕

**+2**

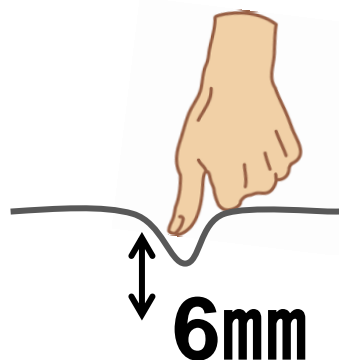
(軽症)



明らかに  
圧痕

**+3**

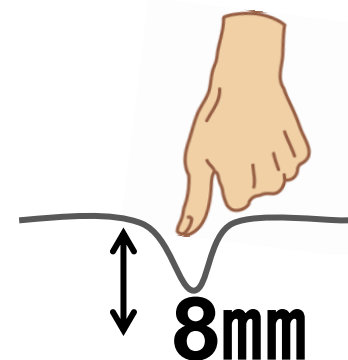
(中症)



静脈や骨が  
不明瞭

**+4**

(重症)



見てすぐ  
わかる  
高度な浮腫

## アセスメントスケールの利点

①客観的に評価ができる。

スタッフの不安も解決!!

②スタッフ間で情報共有できる。

③経時的な観察ができる。



## アセスメントスケールの問題点

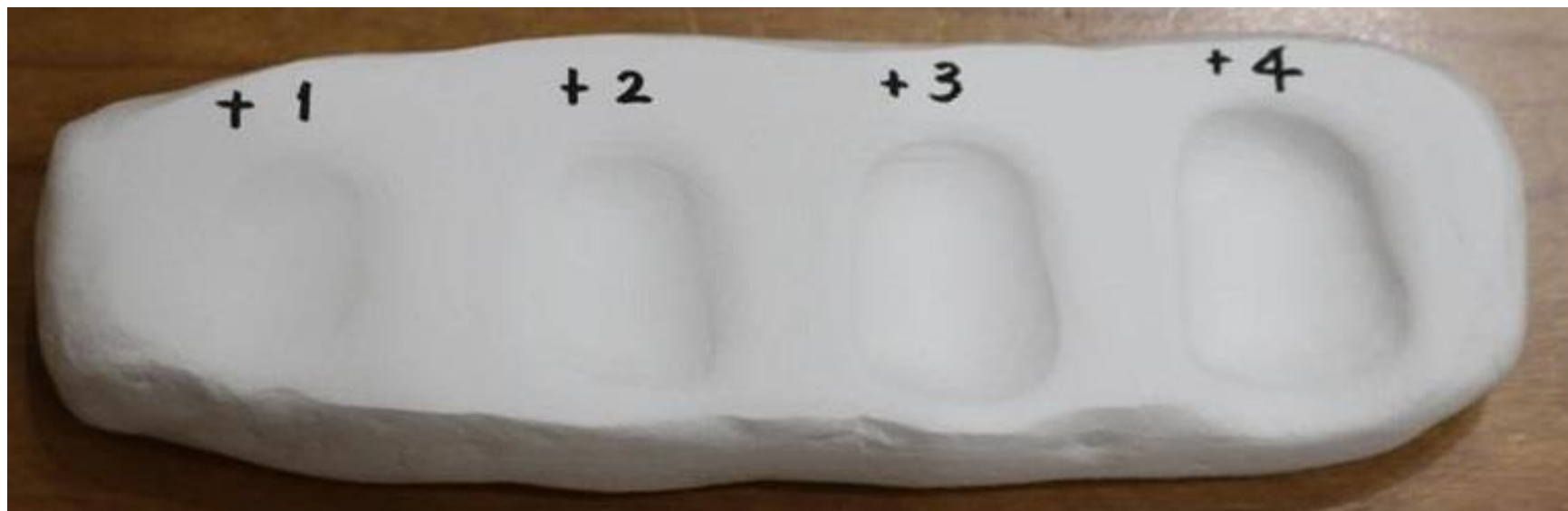


①スタッフ全員が

このスケールを使う必要がある。

②浮腫の凹みの深さがわかりにくい。

# アセスメントスケールの模型



# まとめ

①浮腫を細かな基準で評価すること

→浮腫をより正確に把握

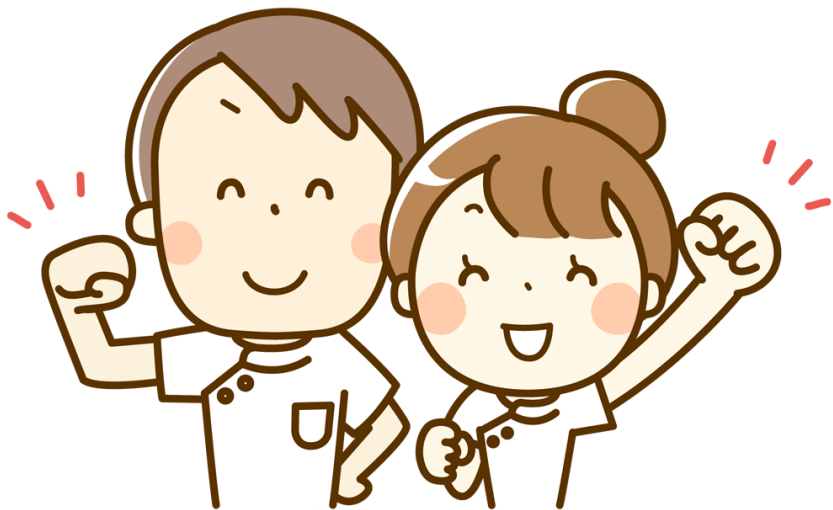
②スケールをスタッフ全員が活用

→ケアや治療がスムーズに



さいごに...

**スタッフで浮腫の基準を  
一致させることが大切!!**



以上、ご静聴ありがとうございました。



<参考文献>

河合雄一郎・小川智(2017). 浮腫が起こる 友雅司(編)  
腎臓・透析療法・透析患者の体イラスト図鑑 メディカ出版